美穂地区　地域づくり懇談会　　議事録

１　日　時　平成２５年７月２６日（金）　１９：００～２０：４５

２　会　場　美穂地区公民館

３　出席者　地元出席者　　５８名

市側出席者　　１４名

竹内市長、深澤副市長、木下教育長、羽場総務部長、亀屋庁舎整備局長、武田企画推進部長、浅尾農村整備課長、綱田都市環境課長、浅井体育課長、高橋秘書課長

＜事務局＞安本協働推進課長（司会）、岡本協働推進課課長補佐、岡田協働推進課主任、田中協働推進課主事

４　「地域での市の主な取り組み」について

スクリーンに基づき説明（竹内市長）

５「協働のまちづくり」についての報告

（まちづくり協議会副会長）　※スクリーンに基づき説明

美穂まちづくり協議会では、まちづくりの大きな目標を、みんなに優しいまちづくりをめざしてということで、組織を結成し取組んでいるところです。まちづくりの組織図として、５つの専門部が設けられています。発表は、総合企画部の中の事例ですが、それぞれ５つの部が具体的な目標というものを掲げて事業を推進しています。

その５つの部の組織には、区長会だけじゃなくてＪＡさん、ボランティア活動、消防団や農業委員さんという美穂地区のいろんな組織のものが加わって、全体で今までになかったような取組みができればなということで、区長会以外の組織も構成委員として入っていただいています。

総合企画部の中に、短期的な実現を図る計画と、中長期にわたってやる項目の２項目に分けています。短期的実現を図る計画には、みんなが親しく出会い、交流懇談できる場所づくりということで、まちづくり計画書に、公民館にカフェサロンの設置等と具体的に書いてありますので今実行しています。このカフェサロンについて今回は事例発表させていただきます。カフェサロンにつきましては、平屋の建物が出来ましたので、平成２４年６月より早速カフェサロンの場所を設定しました。談話室という呼び方をしていますが、ここに８～１０人ぐらい座ることができる丸いテーブルを２テーブル設置をさせていただきました。月に４回、第１、第３水曜日と第２、第４土曜日の９時～１２時までということで限定して実施しています。

美穂地区の人口は、年々減ってきているということと、若い世代が減ってきて高齢者が増えてきた。これは、美穂地区が特別な状況ではなくて、市全体もこういったかたちではないかなと思います。今度は公民館の利用人数です。全体的な公民館の利用人数は、平成２２年度１７，８７３名、平成２４年度１８，８５３名ということで、約１，０００名は増えています。カフェサロンにつきましては平成２４年の６月～今年２５年の３月までに

９７２名にご利用していただきましたので、このデータからいくと、利用が増えたから多くなったというような見方もできますが、そこまでは分析はできていません。ただ結果としてこういった状態にあるということを報告します。

公民館の利用について公民館の主催事業とか、サークル活動とか、ふらっと寄ったとか、公民館にはこういったかたちで寄っていただいているというような集計がしてあります。結果的には、公民館主催事業に関わる利用が増えているのが実態です。カフェサロンとは関係ないかも分からないですけど、子どもさんが増えました。

平成２２年度の公民館の利用平均と比べて、平成２４年度には少し増えています。入口を入った左右に２ヶ所円テーブルを置いています。高さの高いテーブルが置いてありますが、これは会議ができるようになっていますので、カフェサロンは円テーブルを使って実施をしています。これからが報告の主題になろうかと思いますが、カフェサロンの成果ということで、６月～３月まで、１０ヶ月で約１，０００人、カフェサロンをご利用いただきました。我々がスタートしたときには目標は設定しなかったんですけど、結果１，０００人とかなり多くの人に利用していただきました。利用していただいた人はコーヒーが１分や２分で飲めるわけがないんで、何分か居っていただいて、それぞれが話し合いというようなかたちでの交流の場になったんじゃないかなと思います。公民館事業で参加人数が増えているということもあるんですけど、グラウンドゴルフをされるグループが済んだ後にカフェサンロンを利用していただくとか、長寿会が打ち合わせにコーヒーを飲みながらしようかということで、カフェサロンを使っていただくというようなかたちでの活用もしていただいています。

課題の１点目は、公民館主体の事業が増加しているんですが、他のグループとかぶらっとふらっと等は減少しているので、その橋渡しにカフェサロンをいろんな人にいろんな活用をしていただきたい。内容を少しシフトするというか、公民館主体の事業のあとにということもいいんですけど、カフェサロンがあるから来てコーヒー飲んでみようというようなかたちでの参加というのを努力していかないといけないかなと思います。月に４回、午前中だけですが、その回数を増やしたいんです。ボランティア４、５人が交代でやっていて、今はカフェサロンだけなんですけど、この地域を活性化させようと思えば、ボランティアの登録を少し展開していかないといけないかなと思います。

今度はまちづくり協議会としての課題ということで、ボランティア制度を確立するというのがあるのかなと思います。５つの部が構成されているんですけど、ほとんど区長会の役員さんがその中にドンとはまっていくというようなかたちで、役員がまたさらにまちづくりの活動をしているということで負担になっている部分もあろうかなと思います。今年２年任期でスタートしていますので、この２年任期が終わるときには、まちづくりと区長会の関係を見直しをしようということで、今から検討をしてスタートをしていきたいと思います。それと、まちづくりの役員は、構成の関係から、各種団体から役員さんを選んでいただいていて、そういったことも１つはいいんですけど、もう１つは、例えば安全安心部会は、美穂地区におられる消防士のかた、健康福祉については看護師さんとか保健師さんといった資格を持っておられるかたが携わっていただくということも検討していかないといけないかなと思います。

６　地域の課題についての市長等との意見交換

（地元意見）

私がちょうど区長会長していた１０年前からの事業がやっと実ったわけですけども、菖蒲のちょうど国道に入る道が、朝はものすごく混んで、新しいバイパスの方まで渋滞しています。県の職員ともよくこの源太橋の件でお話するんですが、河原から国道に乗るとかえって時間を食うので、下を走ると言われます。来年にはこの源太橋は開通しますね。それで、２車線になってセンターラインが引かれると、今みたいにセンターラインがない状態だったら、通る人も遠慮をしたり、あるいは揺れたりしますが、これがみんな解消されます。そうすると、こちらをどんどん走るようになるんじゃなかろうかと思います。ここの美穂地区の交差点一時直してもらったわけですけど、将来計画でもできて、高速道路が新しいバイパスの方まで本当に延びるんかいなという思いもします。そうするとここの車の台数もどんどん増えていくんじゃなかろうかなと思います。朝、児童が４０人ほどここを横断していますし、向国安の方から出る車が、あそこ信号があればいいんですけど、この向こう側から源太橋の方が今度新しく開通になってできますと、見えないんです。旧美和分校の植木があって、向こうから来る車が危なくて困るので、この辺も考えて信号機があった方がいいんじゃなかろうかと思います。１つその辺も考慮してご回答の方お願いします。

１　信号機の設置について

＜地域課題＞

県道猪ノ子国安線の、鳥取県教育文化財団（旧美和分校）斜め前交差点は信号機がなく、通学している子どもたちが横断するのに危なく、以前から信号機の設置をお願いしている。この度の源太橋拡幅により、大型トラック等の通行量は増え、以前にも増して子どもたちが危険にさらされると思われる。そのため、早期の信号機設置をお願いする。

＜担当部局の所見等＞

【企画推進部】

当該地については、平成２２年に鳥取警察署に要望したところ、「学校（旧美和分校）の廃校により歩行者が減少したことから信号機は必要ないと認められます。」との回答を得ています。

しかし、橋の拡幅により通行量の変化が生じることも想定されますので、開通後に改めて信号機の設置を要望していきたいと思います。

（企画推進部長）

平成２２年度の地区要望でもありまして、鳥取市としましても鳥取警察署の方に要望しています。その答えが、歩行者が減少したから信号機は必要ないと認められますという鳥取警察署の回答です。具体的に何人から何人に減ったんだという数字は私どもも把握していませんので、基準というのはちょっと分かりかねますが、旧美和分校のところの横断歩道ということで、この植木ですとか、あるいは石垣等々ありまして、源太方面から非常に見えにくいという状況というのは現在も変わっておりません。

また、通学路にもなっております。通学路の点検というのは昨年の８月には点検を実施しておりまして､我々もちょっと危ないのかなという問題意識は持っております｡それで、源太橋の工事が、来年の８月末ぐらいまで続くということで承知しております。開通したら非常に車両の通行が増えるということは予想されますので、再度また警察への要望というのを考えていきたいと思います。

（地元意見）

源太のところで、以前にも交通事故があって児童が１人死んでいるんです。だから、どうしてもあの辺に信号機を１つ欲しいなというのが実状でして、ぜひお願いしたいと思います。

（地元意見）

信号機の件で、認識の差があるんじゃないかなと思います。写真１と２があるんですけど、一番写してほしいのは写真１の反対側です。旧美和分校の垣根がいかに邪魔しとるかというのが、写真が見やすい方ばっかりしかない。そこがネックになっているという部分も結構あるんで、そこのあたりも考えていただきたいと思います。

（地元意見）

今、全国各地で集団登校の中に車が突っ込んだりとか、いろんな大きな事故が出ています。ましてや通学路で、歩道で信号がない、そういった状況の中で、ただ先のデータを見てからとかじゃなくて、鳥取市にも危機管理課という課がありますよね。いろんな意味でいろんなことを想定して事前に対応すると、事故が起きて誰かが死んでから対応する、あるいは車の通行量が増えたから対応する、それでは遅いと思うんですよ。これだけ子どもの数もどんどん、どんどん減ってきている。少子高齢化で子どもの本当に貴重な生命を守るためにはきちっとその辺を予測して､事前に対応するような方向性を持っていかないと、いつまで経っても先の先のって言っておったら、他の関連にはどんどん、どんどん大きな鳥取市の予算をつぎ込んでおるんですから、その辺のことを考えてやっぱり対応していただきたいと思います。

（地元意見）

この信号機の設置の決定権というのは、県警なんですか。鳥取市なんですか。県警がＯＫと言わんから鳥取市はやらないのか、その辺がちょっと分からないですね。

（協働推進課長）

信号機の設置につきましては、公安委員会の決定権限です。必要性等は、交通量なり通行者数等が１つの目安になっているのかなと思いますが、所轄の警察署の方で必要だとい

う判断をしたら、警察本部の方に上申をされます。警察本部の方が年に数回ある公安委員会に上申をして、そこで最終的に可否が決定されるということのようです。さらにその後、県の方で予算がついたものから順次ということで、県下で年間に信号機が昨年は十数基だったでしょうか。状況としてはそんな感じです。

（竹内市長）

信号機の設置については、市が独自に判断して信号機をつけるというのは権限もありませんし、そういう予算を市が持つということはないわけです。しかし、数多くの信号機は、鳥取市が要望して実現してきております。ここについては、まだ源太橋の工事が始まる以前の段階で、地区要望もありましたから、一度警察に行って何とかなりませんかと要望しております。そのときは、学校が廃校となって歩行者が減少したから必要ないというのが警察の判断として出されて、上にあがったりしませんでした。それで、昨年の通学路の安全点検を鳥取市挙げて強力にやったときにも、また警察も一緒になって現場を確認してもらって、ここは危険であって改善を要するというのが、地域の判断であるとともに、鳥取市もそういう判断の基で、ともに検討して信号機については、警察に判断権があるということで、現在は車両が極めて少ない状況だから、開通後に再度要望があれば検討しましょうという趣旨で話が出ております。それを基本的には受けて我々の回答も作っている状況ですが、開通後の交通量っていうのは、恐らく道路管理者、これ県道ですから県もある程度分かっているんじゃないかなと、あるいは想定している可能性があるなということもお話を聞きながら感じました。

警察の中の検討がされて予算化されて実現しますので、今の状態のままで恐らく信号機ということにはなかなかならんと思います。警察が開通後に再度要望があれば、また検討すると言っている状況ですので、一度、我々としても早いうちに話をして、この今日の地域づくり懇談会を受けて、再度、今の段階から即、向こうが判断してつけるということはないにしても、地域の声をしっかり伝えて、我々も想定する交通量はどれくらいだというようなことも少し洗い出したりして、それで、安全のためにつけて欲しいというようなことを前倒しで検討してもらうというようなことができるようにしていきたいなと思います。

最終的に警察の再度の判断ということはご理解をいただきたいと思いますが、地域の声をしっかりと伝えるというのは、我々の任務だと考えております。また改めて、地域の代表の皆さんと一緒にいくという手もありますので、当面は鳥取警察署に頼みに行くところになりますが、そういったことも併せて、こちらの方で検討してみたいと思います。

（地元意見）

多くのかたから意見が出て、その必要性については、地元とすれば大変強く要望をするものです。特に朝は、保護者が通学のときにあそこに立って横断歩道を渡らせているんです。毎朝交代で保護者がしているので、帰りのときが非常に困るんです。下校時間は学年によってバラバラでしょう。そういった関係で、小学生の低学年なんかがあそこを渡るときには、非常にその辺を心配しておるというのが実態です。朝は保護者がきちっとしていますが、下校時が大変だということも、しっかりと認識をしていただきたいと思います。特に下味野の５０名近くの子どもがあそこを横断しますからね。我々も県なり、地域要望

をするときには、しっかりそのことも言いますが、市の方としてもそのことをしっかり認識をした中で、やはり警察の方にも、しっかり要望をしていただきたいと思います。

もう１つは、美和分校が廃校になって、他の埋蔵の関係で使われているんですが、あそこのすみ切りを改良するようなかたちで、ぜひお願いをしたいなと思います。

特に、上の方から、向国安の方から出たときに、あそこはなかなか見通しがつかないというのが大きな問題です。ですからあそこを、大胆にすみ切りを取って見通しがいいようにお願いしたい。源太橋が開通するまでのこの期間に何とか改良ができたらなという強い思いがあります。９月か１０月頃にまた県の方にも地域要望事項を出すときがありますから、その辺についても地元としても強く要請をしていきたいと思いますが、仮に、学校の方の用地を分けてやるということになったときに、工事は市の方でやってもらうという方法もあると思うんです。バスレーンにしても、小学校のグラウンドを提供するということで、県がバスレーンを設置しようかという話になっております。今度は分校の用地を提供してもらって、地元の方が県に対して要請をして、それが了解を得られれば工事の方は市でやるとか、そういった方法でも考えていただきたいと思います。

いずれにしましても源太橋が来年の７月、８月には開通しますので、それまでに一緒にこの改良をやっていただきたいなあと思います。

（竹内市長）

現在は、旧美和分校の土地のところをちょっと下げてもらって、交差点の見通しをよくして、子どもたちの安全のためにも、道路交通上の安全のためにもいいことだということでのご提案だと思います。そういったことも関連して、信号機の話だけじゃなくて検討してもらうということは、私も信号機と別に一歩前進の点があると思います。工事をどっちがするかというのは、道路管理者同士の話し合いだと思います。こういう交差点の改良で県道と市道が交わる場合っていうのは例もたくさんありますので、工事の話はどちらがそれぞれの取り分の中でやるかは別にしても、旧美和分校の土地の部分で可能であるかどうかですね。現在は、埋蔵文化財の所蔵庫みたいに使われているということでしたので、隅のところは交差点の見通しをよくするために使うということも県の方も十分了解が得られる可能性あると思いますね。今後の検討をお互いしていきましょう。

（地元意見）

１つのいい例を、ちょっと申し上げさせていただきたい。今の道路から東側に行ったところに源太に入る道があります。あそこは市の方で工事をやってもらったんです。道路が狭かったので、苦肉の策として、県の用地、法面を直にしてもらって道路拡幅していただいたんです。県に許可をお願いして、市で工事は実際やっています。だから、それと同じようなかたちで地元の方として県に強く美和分校の用地を提供してくれという話をしてＯＫが出れば市の方で工事をやっていただくというふうなことを、頭に入れて置いていただきたい。

（竹内市長）

検討します。

２　美穂地区公民館の改修について

＜地域課題＞

地域活動の拠点として地区住民が集う公民館の外壁は老朽化がひどく、一部剥がれ落ちている箇所もある。多目的ホールの暗幕は破れたり、無くなっている箇所もあり、運動や行事等の時に暗幕の役目を果たしていない。また、トイレのタイルも剥がれ、ボコボコの状態になっているので併せて和式を洋式のトイレに改修し、利用しやすいようにしてほしい。利用される方からも修繕してほしいとの声が寄せられている。

＜担当部局の所見等＞

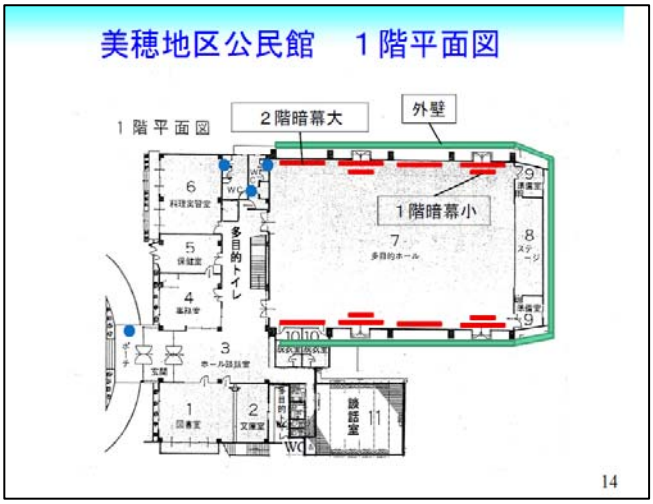
【企画推進部】

本市では現在、地区公民館の施設改善につきましては、トイレ男女別化改修工事と耐震補強工事に重点的に取り組んでいるところであり、また、地区公民館の修繕については、利用者の安全性を確保するための修繕を優先的に行っています。

最近実施しました美穂地区公民館の改善・修繕の内容は、平成２３年度に談話室の増築（１１７㎡）、平成２２年度から２５年度の４年間でフェンス取替、平成２４年度は１階雨漏れ修繕、平成２５年度は漏水修繕などであり、緊急性のあるものを中心に対応しております。

多目的ホール内の暗幕修繕につきましては、来年度以降予算の範囲内で新規のものに取り替えることを検討いたします。

外壁改修につきましては、今後の老朽化の状況により、対応させていただきたいと考えておりますし、トイレの修繕と洋式便座への切り替えは、今後の状況を勘案しながら検討いたします。



（企画推進部長）

美穂地区公民館につきましては、昭和５３年の建築ということでかなり古い建物ではありますが、ただ、耐震診断を平成２１年度にやっております。その結果は、非常に頑丈な造りになっていて耐震の診断はＯＫですよということで、耐震化というのは必要ないということです。それだけではなくして老朽化に伴いましてさまざまな修繕というのをやっております。先程ありました談話室の増築というのもありましたし、昨年は１階の文書室・図書室の雨漏りの修繕ですとか、自転車置き場の修繕、また高圧計器盤の取替等もやっております。また本年度は漏水の修繕、玄関ポーチのモルタルの修繕、こういったものもやるようにしております。また、平成２２年度から今年度まで４年間で全てのフェンスの取替えの修繕、こういったものも行っておるところです。

公民館の修繕は、安全安心に関わる緊急度の高い内容のものから、実は実施しておりまして、そういったことからこの公民館につきましても、今ご紹介させていただきましたよ

うな急ぐ修繕、これは適宜行ってきております。それで、今回要望いただいております多目的ホールの暗幕です。非常に立派な多目的ホールでして、アリーナには大きい暗幕が１６枚、通用口には少し小ぶりの暗幕が４枚ということですが、ほとんど色あせておったり、破れておったりということでちょっと用を成してないじゃないかということです。どうしても暗幕ということで、緊急性という部分では若干優先度が低くなるのかなということもあります。ただ、予算の範囲内で年次的に少しずつでも新しいものに取り換えるようなことを考えていきたいと思います。

　また、この公民館の多目的ホール、いわゆる体育館的な部分ですが、ここの外壁が古くなっておりまして全体的にやや黒ずんでいたり、あるいは部分的に外壁が剥がれ落ちたりしているところもあるということです。これも、もう少し様子を見て、何とか対応を検討していきたいと思います。それからトイレのタイル等のことについてもありましたが、これにつきましても、もう少し様子を見ながら何とか対応を考えていきたいと思います。この和式のトイレの変更ですが、他の公民館でも洋式のトイレ、また男女別のトイレに改修したりということを進めています。この美穂地区の公民館につきましては、談話室の整備のときに多目的トイレ等々も整備しておりますし、また他にも洋式便器等もありますので、何とか当面そちらの方を利用していただければと思います。

（地元意見）

**　要は利用者の安全性を確保する修繕を優先的にやりますよというようなことが書いてありますが、例えば、トイレの亀裂の分とかは、安全性がすごく優先的ではないかと思います。例えば年配者のかたがつまずいて転んで怪我をするとか、そういう危険性があるんではないかと思うんですが、これは先送りをされるという回答だったんでしょうか。**

（企画推進部長）

　根本的な改修はすぐにはできませんが、現状を確認しながら、本当に危ないというところは、応急修繕って言ったらちょっと語弊があるかも分かりませんけども、最低限危なくないような修繕をやるというのは、これは当然やらせていただきます。いわゆる根本的な、タイルを張り替えたりとか、そういうのはちょっとすぐにはできないですがという意味ですのでご理解いただきたいと思います。

（地元意見）

ぐっと盛り上がっているところがあるのは、見ていただいたと思うんです。これにつまずいたり、怪我をしたりする恐れがあるんじゃないかということで出しているんで、その辺は安全を主に言っているんではないかというふうに思いますので、よろしくお願いします。

（協働推進課長）

写真見せていただきまして、部分的でということになりますが、やっぱりちょっと見てどうかなというふうに感じましたので、こういう部分は対応させていただきたいなと思っております。

（地元意見）

確認ですが、多目的ホールの天井は、アスベストの吹きつけではないですよね。

（協働推進課長）

何年か前に、確か市の施設は全市的にアスベストの調査をしております。特に、こういう目視の部分というのは調査を全施設しております。その時点でアスベストではないという確認をしておりますので大丈夫です。

（地元意見）

多目的ホールの暗幕は、ちょっと触ったら、もうぼろぼろ埃になります。布がもう弱ってちょっと触ったらぼろ、ぼろ、ぼろというような感じです。これがまた空気中にバアーと天気のいいときには、埃がものすごく舞っとるんですよ、実際。子どもなんかがボールでもぶつけたらそこがもうブワーというような感じです。それだけ暗幕は弱っている状況だということを認識していただきたいと思います。確かに床などは綺麗で、本当にたくさんのかたが使っていますが、暗幕は早急に対応していただきたい。

建物は維持管理をして大事に長く使わないといけないということは、もう言わずして分かっていると思います。昭和５３年だったか、ここの公民館と一緒に刑務所を誘致したときに造った体育館で多目的広場です。昭和５３年に建って今、３５年経っています。外壁をきちっと、クリーナーかけてでも塗装をやり直せば、大きな傷みにならずに、長く使えるというように思います。ですから、きれいに外壁を掃除して、また新たな吹きつけをすれば、また長いこと使えるんです。これも

３５年も経った外壁ですから、早急に対応して、大事に使うということをしっかりとやっていただきたい。

今小学校が耐震化に入っております。外側を囲って補強するということですが、せっかく足場を組んで外壁を外から囲って補強しますので、この小学校も外壁を１回、足場を組んだ際に掃除をしてきれいにされれば、また長く建物の長寿命化につながるんじゃないかなと思います。それのみにするということになれば大きな金がかかりますが、今せっかくこの耐震化をするときに足場を組んで作業されるんであれば、この機会に外装を掃除されるということは、非常にいいじゃないかなと思っています。

（竹内市長）

建物の外壁というのは、やはり鉄筋コンクリートの建物はどうしても、汚れが目立ったり、あるいは雨水が浸透していったりして、建物の強度が劣化したりしていくことがよく言われています。適時適切な維持管理が非常に建物の寿命を延ばしたりする効果があると私も認識しています。３５年経った建物がちょうど外壁を再度塗装したりする適切な時期なのかはやはり専門的な診断をして判断をする必要があると思います。外壁が落下しているという話もありましたので、やはりいずれにしても、何らかのことは考えなくちゃいけないと思います。老朽化の状況等を検討、調査して対応させていただきたい。市内にはたくさんの施設もあって緊急性を要するものからやっていこうということにはなっています。今やっておけば、もっと長く使えるもの、今やらないと非常に寿命を縮めるというような時期に当たっているのかどうか、そのあたりも見極めて、対応を考えたいと思います。

小学校については、耐震化が急がれるということで取組んでいますから、外壁の掃除をしてきれいにするのはいいアイディアだとは思いますが、果たしてそういうことをするように考えるべきかどうか、ちょっと即答は無理でして、教育長に少し考え方があれば聞きたいなと思います。どうなんでしょうね。

（教育長）

今ちょうど耐震補強やっております。掃除についても、緊急度という話がありましたが、当然学校の方もそういうことになってくるわけです。実は耐震用の壁にしまして、ほんの一部ですが、耐震を兼ねたちょっときれいな外壁がちょっとのぞいてきます。全体についてはなかなか現在のところでは即できるというところにはなっておりませんので、１つご理解をお願いいたします。

（竹内市長）

暗幕のことは、担当部の方での検討も聞いてきました。これは子どもたちの安全とか、そういった面では直接関係が薄いというようなことだったと思いますが、状況を見ながら

逐次整備をするというようなお話をしていたと思います。暗幕というのはどれくらい使用頻度がありますか、実際は。どなたか多目的ホールの利用の状況を聞かしてください。
　あそこを閉めて、暗くして体育館使われる必要性が高ければ考えないといけないなと感じましたので、あとで検討させてください。

（地元意見）
　あそこの外壁も、今手を入れれば本当に安くて済むと思います。これを今放って、雨が浸透したりすれば､すぐ冬なんかは凍って外壁を起こして､本当に落ちるようになります。３５年も経っていたら、やはり今、塗装して浮いているところがあれば、そこを処理すれば安くて済む。今、これからあとにすれば大きな金がかかるようになりますよ。そのことをちょっと頭に入れといて検討していただきたい。

（竹内市長）
　はい。良く分かりました。

（地元意見）
　学校の外壁でも、今、足場を組んでいて、高圧洗浄すれば簡単にできるわけですよ。仮に高圧洗浄するのに５００万円かかるとしても、今度は別にすれば足場を組んですれば、１，０００万円も１，５００万円も倍も３倍もかかるようになるという。ですから、足場組んどるときに高圧洗浄すれば、新築のようなかたちになりますので、そのこともちょっと頭に入れて検討してやっていただきたい。

７　市政の課題についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）
　江山中学校の前の道路、これ農道を通学路にしておるようです。ただ管内が大和地内になるんで、美穂地区の要望には挙がらないと思いますが、通学路を通る生徒は全部美穂地区の者なんです。先日も１人自転車で川に落ちたと。だいたい幅が２ｍぐらいで、深さ１ｍ５０ｃｍぐらいで、江山中学校の前に排水路があります。そこに、川に落ちた子がおるということも聞いております。それで､あそこの防護柵等を早急に検討していただきたい。
　もう１点は、去年８月一斉点検をやられたと聞きましたが、８月はまだ明るいからいいんですが､秋から冬にかけては日が短くなって､夜中部活､クラブ活動なんかして帰ると、とても真っ暗のところを通るような状態になります。それで、夏場については街灯を切ってもらってもいいですけど、冬場に何とか街灯をお願いできたらなと思います。ただ、現時点では、駐在さんがときどきパトロールで、自分の車で照らしてやっておられるようなことも聞いております。民児協の会長の中にも、特にあそこは危ないから、何かあってしまってはいけんので、何かある前に手を打っていただきたいということをお願いしたいと思います。

（教育長）
　学校の方としっかりと話をしまして、安全なかたちでいくように考えてみたいと思いま

す。

（地元意見）

自主防災会の活動助成金です。多分各村に年に２回防災訓練等すれば１８，０００円の活動助成金が出ていると思います。うちの村には今、消火栓が１０ヶ所、ということはその格納箱も１０個ある。結果的にその格納箱は、年々更新しているという状況ではないんで、多分一気にされているんだと思います。それで、現状１０個が全て底が抜けている、抜けそう、斜めにして落ちないようにはしているんですけど、中にはどんと下に落ちている。それで、区長さんもこの前点検をされて、危機管理課に電話させてもらったら、ボックスだけでも２万円以上はするとか。いつからこの自主防災会の助成金が出ているのか過去の経過は分からないんですけど、年間１８，０００円もらって、とってもじゃないけど１０個をするというのは現状大変な状況です。それと今度はその中に入っている、消火栓の下に挿すスタンドのパッキンも何個かいけんというようなことで、火災が起きたときには、大変な状況です。

ここ鳥取では盗難とかはないとは思いますけど、全国的には消火器具の盗難とかということもあったように聞いています。それで、１８，０００円いただいているのはありがたいんですけど、今現在一気に換えないといけない状況にあります。部落負担ということになると経済的に大変な状況になっています。それで、何とかいい方法がないのかお考えいただきたいと思います。また村によって違うんだろうと思いますけど、大きな村と小さい村とがあると思います。多分大きな村も、小さい村も１８，０００円だろうと思っているんです。この使い道といったら、多分ボックスとか、中の器具の更新に充てるのがほとんどじゃないかなと。一部防火訓練などのときに若干使う部分はあったにしても、主目的はそういったものの更新じゃないかなと思っているんです。そうしたら、例えば消火器、消火栓が、例えば５個の村とうちみたいに１０個の村があって、両方とも１８，０００円で、それで妥当かというと、多い部落からするとちょっと不満が残る。それで、例えば消火栓が５個以下の集落と５個以上の集落で、５個以下のところを安くしたらまた５個以下のところに怒られるんで、１８，０００円は今までどおりで、５個以上のところに３６，０００円といった検討をしていただければありがたい。今々ちょっと困っているんで、何かいい方法をお願いできたらなと思います。

（深澤副市長）

自主防災会で訓練等行っていただいたら年に１８，０００円。これは消火栓やボックス等の修繕にはなかなか足りない額だと認識しています。ただ、５個以上とか、消火栓の数によってこれの差をつけるというような制度は複雑になって、これは現実には難しいなと思っています。これは自主防災会の小さな町内会の単位とは異なりますが、まちづくり協議会の単位で町内会の方に防災、自主防災活動の方で何か必要になれば１地区１０万円という制度も新たに今年度から整備したところです。こういったものも何か活用していただける方策がないのか、検討していただければありがたいなと思います。

（地元意見）

地区全体で１０万円で、１回ぽっきりでしょう。地域全体だったら、ボックスの数はまだあるんじゃないですか。

（深澤副市長）

ただ、更新時期が一斉に重なるわけではありませんので、そういった制度も何か活用していただけるのではないかなと考えています。引き続き、研究させていただきたいと思います。

（竹内市長）

自主防災会で年２回以上何らかの活動をしたら１８，０００円というのは、本当に金額的には少ないという声は私も聞いています。地区単位でまちづくり協議会もできて、防災に熱心なまちづくり協議会も多いもんですから、通常の４０万円に加えて、１０万円防災関係で使う計画を示していただいてということになると思いますが、今年度補助金制度を発足させました。差し当たりは、そういったものも活用して、いろいろ研究していただきたいと思います。自主防災会は町区単位ぐらいでだいたい編成されていて、鳥取市は自主防災会の組織率が高いということで、防災に対しての皆さんの取組みや意識が非常に充実してきていると我々も認識しております。必要な経費を考えるという基本的な姿勢は持っていますが、逆に言うと非常に多いので、どこまでどういうふうな適切な対応が必要なのか、いっぺん我々もしっかり調査をして、検討してみたいなと思います。すべての経費を公費で賄うというものでは元々はなくて、少しは奨励金的なものは出しますが、自主防災会はやっぱり地域の活動として、あるいは最初はボックスも、消火活動に使う筒先とか、今言われたスタンドとか、ああいうものをお渡しする格好で、あとは地域で更新していただくような､そういうようなストーリーでだいたいこの活動は位置づけております｡ただ、だいぶ時間が経って、今言われたように一挙に直さないといけないようなことを、どういうふうにしたら一番安くできるのか、既製品でなきゃ絶対いけないというものでもないと思います｡だから､きちっとした保管場所を､いろいろ工夫をしていただくことも含めて、実態把握をして対応をまた引き続き検討したいと思います。当面は１０万円をまず活用してくださいませんか。

（地元意見）

毎年１０万円ではなく、１回ポッキリでしょう。

（竹内市長）

一応３年間のうちに、急ぐ所とゆっくりでもいいところとあるはずですから、３年間のうちに１回で、その次の３年間にまた１回してもいいし、それからあと連続したっていいと思います。それは３年経ってから考えようということになっています。今のところそういう考え方です。だから、１回コッキリと言ったわけじゃなくて、平成２５、２６、２７の３年度の内に、一応全地区が１回ぐらい使われるという前提で、計画的に予算措置をしようと。地域の申し出に基づいてやるもんですから、一斉に一律に押しつけるようなことは考えておりませんので、よろしくお願いします。

（地元意見）

この度、鳥取市が防犯灯のＬＥＤ化の取組みで地元負担が２割ということがあったと思いますが、そのような方式で、先程のホースの格納庫の分なんかについても、鳥取市で一括して１００なら１００、２００なら２００、毎年買って、希望を取って、地元の負担を取ってというふうに対応したらどうだろうかという気がするんです。私が覚えてからでも保管箱が３０年を経過しています。足あるいは底が腐って、補修か取替えしかないんです。この度、鳥取市が防犯灯のいい取組みをしましたので、その方式でこの２、３年、あるいは４、５年かけて、たぶん防犯灯よりは数が少ないと思うんで、ぜひともそういうことを取組んでいただいたらと思います。

それから、防犯灯のことについてお願いします。ＬＥＤに取替えると節電になるとよく言われていて、私も申請をしたところですが、あれを一通り当たったときは、鳥取市として電力会社に料金が安くなるように交渉はやっていただけるんでしょうか。今、途中ですから、まだどうにもならんですけど、これは３年なり５年なりの計画でたぶんやると思いますが、全体的に行き渡ったときには電灯料金の定額をちょっと下げていただくという交渉はやっていただけるのかどうかということをお願いします。

（竹内市長）

防犯灯をＬＥＤ灯に替えると事後の球替えとか、電気代が安くなって元が取れるんだということでの新しい制度を普及させようとしています。これは併せて、鳥取市内でＬＥＤ産業も盛んになってきつつありますんで、そういった点の効果もあるんじゃないかということでも進めています。電気代の方は、私の理解では、とにかくＬＥＤにすると消費電力が小さくなることは間違いないんで、現在の蛍光灯なんか使っているのに比べて、使用電力が減りますから、安い電気料金になるように、中国電力との関係ではこの制度の発足と同時にしたと記憶しています。ただ、ちょっとここにいる者で確認できなかったので、やったはずだと言いましたが、もう一度調べて確認して、分かるようにさせていただきます。いずれにしても、この地域づくり懇談会の記録の中にきちんと回答させていただきます。

それから、その例を参考にしながら、自主防災会の保管庫とか、ホースや筒先といった関係器具についてもいろいろ考えられるんじゃないかというお話がありました。これも含めて今後の自主防災会活動なり、自主防災会の器具の関係で、ホースに穴が開いたりというのがありますので、そういったことなんかも含めて、組織率がまだ１００％にもなっていませんし、皆さんのそういった熱意や努力に市の方も応えていくというのが協働のまちづくりです。今、防災のことは非常に鳥取市も力を入れているときでもあります。そういう必要が生じたときに、どういった負担割合で修繕ができるようにするかというような新しい制度が必要なんじゃないかと。先程は地区単位の１０万円が１つ今年度から始まったからというところで申し上げましたけれども、先程の実態調査の話も含めて、制度の検討の中にご意見を参考にさせていただきたいと思います。もう少し充実せよというご要望ですので、考えさせていただきたいと思います。

＜補足：道路課対応方針＞

防犯灯をＬＥＤ灯に取替えた箇所ごとに中国電力に電灯料金区分の変更申請を行いますので、電灯料金の単価が変更され、電気代が安くなります。
電気容量の変更により月額１００円程度安くなると考えています。

（地元意見）
僕は転勤組で久しぶりに鳥取に帰ってきたんですけども、市役所の職員のかたがたが前とすごく変わっていて、ぜひ褒めておいてあげてください。前は、例えば各課に用事があって行ったときに、分室の何階にその課はありますからとか、本館の何階にその課はあります、そちらの方に行ってくださいということだったんです。最近は、ご案内しますということで職員がもう率先して案内してくれました。これはえらい違ってきておる。これは帰られて職員のかたを褒めてあげていただきたいなと思います。

（竹内市長）
ありがとうございます。分かりました。皆も、部局長も喜んでおります。まだまだ徹底したいと思います。

（地元意見）
最後に要望として、皆いろんな意見を持っておられると思うんです。ところが、時間がないですよね。わずか４０分、４５分の討論しかできません。皆、結局不完全燃焼のまま帰っちゃうと思うんですよ。だから、夜になるとこういう時間帯で、時間も限られてくるんで、やり方を土曜日、日曜日の昼間にやって、時間をかけていろんな意見を聞いて吸収していくということは大事だと思います。その辺のことを含めて考えていただきたいと思います。今、市庁舎の問題でいろいろ話が混乱していますが、これも市庁舎の問題、事前の説明会が不十分だったから、こんな状況になっているんです。その辺のことも含めてきちっと時間を十分割いていただくようなやり方というものを工夫、検討してください。

（竹内市長）
合併前は、ずっと私が市長になってから毎年１回各地区を回っていたんですが、合併したら地区の数とか、公民館の数が２倍になりまして、なかなかその適当な時期、だいたい６月市議会が終わってから１２月の市議会が始まるまでの７月～１１月に回っています。次の年度にそういったご要望されたことを実現していくというためにはそういう時期に回らないといけないという。そうすると、どうもなかなか時間が確保できないということで２年に１回になりました。
また、始まりの時間とか、終わりの時間、地域の皆さんのいろんな声とか長くというのも要望もあろうかと思いますが、あまり長過ぎてもというご要望も一方ではあろうかと思います。いろんなかたちで鳥取市としてはご意見を聞いております。地域づくり懇談会や市長への手紙、あるいは地区要望ですね、そういったチャンネルがいろいろありますので、そういったことも念頭に置いていただいて、いろんなかたちでご意見やご要望やご批判とか、こういうことの提案だとか、いろんなことをお寄せいただけたらありがたいと思います。大きな事業を取組むにあたっては、できるだけ情報発信をしたり、常時意見を受け付

けますということで我々も庁舎問題などでもそういったことも申し上げております。庁舎問題は、随分、長い経過を経て、説明会などもいろんな時期にいろんなかたちで行っておりますが、今、大分、最終的な段階に近づいているところですので、市議会の皆さんのご理解、ご協力もお願いしながら、市民の皆さんの意見を踏まえたこの方向性を出していきたいなと思っています。ご意見は、しっかり受け止めて参考にしながら進めたいと思います。

８　市長あいさつ

今日は、こうして美穂地区の多くのかたにお集まりいただき、これも会長さん、地区会長さんがたを初め、地域の役員の皆さんが地域づくり懇談会に出て、いろんな様子も聞き、意見も述べようということでお越しいただいたことの大きな表れだと思います。

特に信号機の設置の話など、改めてこの場で伺うと、やはり源太橋が改修されて、その後の状況を踏まえながら要望するというのでは、足りないんだということを私も痛切に感じました。開通後の交通量はどうなるんだといったことも県の方に確認をして、これまでの経験だとあるときに言ったらすぐその年度のうちに信号機はつくというようなものではありません。信号機の要望は、県の公安委員会は県下で集まりますから２０、３０とあるようでして、一挙につけられないということで切実度の高いところからということになります。早めに言っていくということも大事だなということも、私も経験上思っております。また通学路の点検は、去年やったばかりで、警察の方もそれは去年検討したじゃないかと言うと思いますが、そこは熱意を持って話をして、警察本部の方に挙げてもらえるような、そういう流れを作っていきたいと思います。

他に関連してもいろんなお話を伺いました。今日のお話を受け止め、持ち帰りましてできることからいたしますので、これができたかと、あのときの話で出したやつが実現できたなとまた喜んでもらえる瞬間を作りたいと思います。今日の地域づくり懇談会に皆さんの積極的なご参加をいただいて、いろんな意味で、即できるものと少し時間がかかるものとあるにしても問題の解決につながっていくように私も責任を持って取組みますので、ご理解をいただきたいと思います。

皆さまがた、こうして多くの皆さんにご参加をいただきました。本当にありがとうございました。お礼を申し上げて締めくくりとさせていただきたいと思います。ありがとうございました。